

平成 24 年 7 月 17 日

会員各位

社団法人 全日本病院協会

小児用人工呼吸器の寄贈依頼について

平素から当協会の活動につきまして、ご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、国際医療支援団体（認定 NPO 法人）ピープルズ・ホープ・ジャパン（PHJ）は、東南アジアにおける医療援助を積極的に行うとともに、東日本大震災に際しては全日病と協働して、被災地に対する支援活動を行ってきました。

PHJ からは多額の義援金とパソコン、衣類等、多数の支援物資の提供を受け、全日病と連名で被災地の医療機関に贈ってきたところです。

この度、PHJ がタイで実施している小児心臓病手術事業において、治療に不可欠な小児用人工呼吸器の老朽化、機能低下のため至急代替え交換が必要と現地の医師より求められております。

つきましては、小児用人工呼吸器を寄贈いただきたくお願い申し上げます。

詳細につきましては、下記担当者までお問い合わせください。

記

- 募集内容：ICUで使用する小児用人工呼吸器
（メーカーは問いません。現地病院で希望のあるMARQUET社製品カタログPDFを下の関連資料に掲載しています。）
- 状態：稼働するなら中古のものでも可
- 希望台数：1台

お問い合わせ・お申し込み：info@ph-japan.org まで

担当：蓮見（はすみ）・武長（たけなが）

不明な点などあればお電話 0422-52-5507 までお気軽にご連絡ください。

国際医療支援団体（認定 NPO 法人）ピープルズ・ホープ・ジャパン（PHJ）

社団法人 全日本病院協会 御中

2012年6月22日

国際医療支援団体(認定 NPO 法人)
ピープルズ・ホープ・ジャパン (PHJ)

代表 木村敏雄

担当 横尾 勝

小児用人工呼吸器

いつもご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、PHJ がタイで支援活動を行なっております小児心臓病手術事業では、治療に不可欠な小児用人工呼吸器が老朽化しており至急代替え交換が求められております。稼働するものであれば中古品でも構いませんので全日病会員の先生方にお声掛けをお願い出来れば誠に幸いです。ご検討をよろしくお願い申し上げます。

先ずは用件のみで失礼します。

草々

添付資料 : 寄贈募集紹介
小児用人工呼吸器資料(一例)
PHJ 紹介資料

【寄贈募集】

心臓病手術を終えたタイの子供に人工呼吸器を。



生まれつき心臓疾患を持ち、手術を必要としながらも経済的な理由で受けられない——そんなタイの子供たちの命を救うためピープルズ・ホープ・ジャパンでは1998年から手術費の支援をしています。現在まで100%の成功率で累計285名の手術を実施してきました。(写真は左は現在タイで使用されている人工呼吸器。右は今年の2月に手術を無事終えた赤ちゃんとお母さん)

しかし数年前から問題になっているのが、現在手術を終えたばかりの子供に必要となる人工呼吸器の老朽化。機能の低下が目立ち一刻も早く新しいものと取り換えたい、というのが手術を実施しているチェンマイ大学病院の医師の切なる願いです。しかし心臓病手術の費用を集めるだけでも精一杯な状況のため、高価な人工呼吸器の購入は困難とのこと。

そこで日本の皆様に小児用人工呼吸器の寄贈をお願いします。

中古でも新品でも小児用人工呼吸器を無償でご提供いただける病院関係者や医療機器メーカーの方などいらっしゃれば、ぜひご連絡ください。皆様のご協力よろしく申し上げます。

●募集内容：ICUで使用する小児用人工呼吸器

(メーカーは問いません。参考までに現地病院で希望のあるMARQUET社製品カタログを添付。)

●状態：稼働するなら中古のものでも可

●希望台数：1台

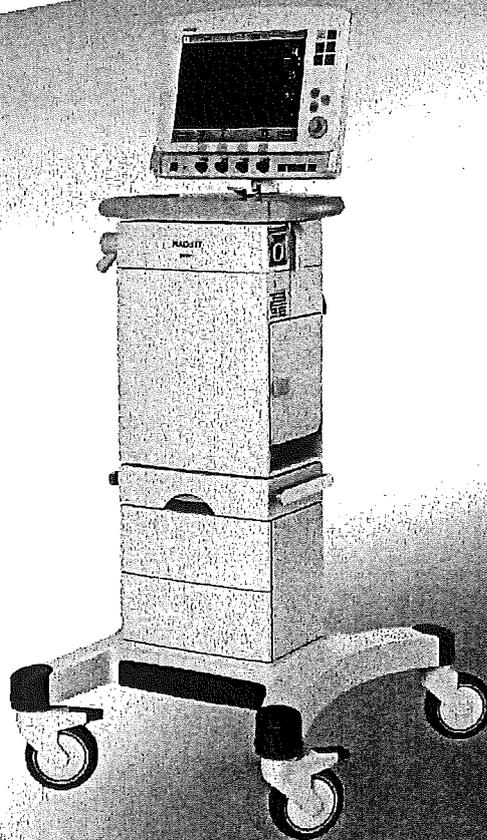
お問い合わせ・お申し込み：info@ph-japan.org まで

担当：蓮見(はすみ)・武長(たけなが)

不明な点などあればお電話 0422-52-5507 までお気軽にご連絡ください。

**VENTILATION
SERVO-i UNIVERSAL**

CRITICAL CARE



HIGHLIGHTS

- For all patient categories - available in two editions
- Intuitive user interface
- Designed for cost-efficiency
- Flexible placement
- Modular – interchangeable plug-in units
- Enables Heliox delivery
- NAVA[®] - improved synchrony and unique monitoring capabilities
- For invasive as well as non invasive ventilation
- The Open Lung Tool[®] and Stress Index - tools for lung protection.
- Available in MR and Transport editions for continuity of ventilatory care

健康をつくる、 希望が生まれる



© Toshihiro Kubo

アジアの人々の自立を医療と健康で支える



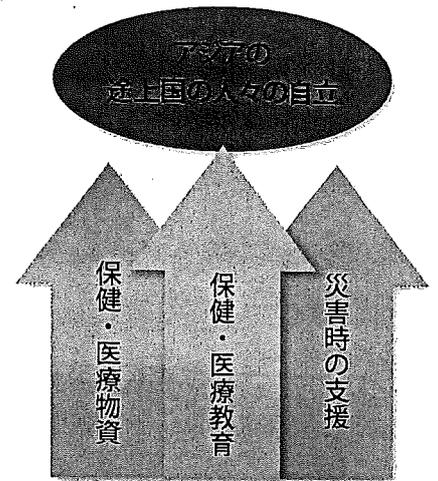
国際保健医療支援団体

ピープルズ・ホープ・ジャパン

特定非営利活動法人（認定NPO法人・第1号）

人々の健康維持と医療レベルの向上、それが途上国の自立への第一歩です

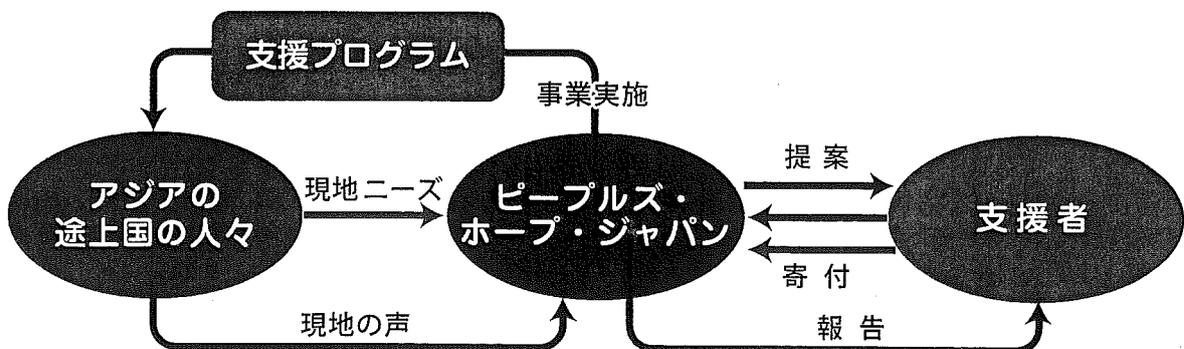
私たちは、
主にアジアの途上国の人々の自立に向けて
「保健・医療の教育」を中心とした支援活動に取り組むNPOです。
企業の社会貢献、国際貢献活動の
お手伝いもさせていただいています。



運営基本方針

1. 「人間の尊重」
人間を尊重するという基本に立ち、世界の人々が健康で希望をもって暮らせるよう、その国の人々を信じ、自立化できるよう支援をしていきます
2. 「良質な活動」
支援地域の現場ニーズを把握した上で、支援テーマを自立化への道筋を含め、支援国・地域と協力して選定し、積極的に活動支援していきます
3. 「中立性」
運営にあたっては政治、思想、信仰だけでなく学校、企業に対しても中立性を維持します
4. 「基金の効率活用」
皆様からのご寄付を1円でも多く現地支援に役立てることができるように基金の効率的運営を図り、経費を削減します

支える側と支えられる側、双方の喜びのために Happy/Happy コンセプト



支援される人々のHappiness
健康に暮らせる喜び

スタッフのHappiness
幸せの橋渡しをする喜び

支援者のHappiness
人を幸せにする喜び

東南アジアの母と子の健康を支えるため 各国に拠点を置き継続的な教育支援を行っています

タイ事務所
チェンマイ

- ・ HIV/AIDS 予防教育
- ・ 子宮頸がん・乳がん検診推進
- ・ 小児先天性心臓病手術
- ・ HOPE/パートナー（里親制度）

ジラナン 所長

カンボジア事務所
コンボントム

- ・ 母子保健改善事業
- ・ 助産師トレーニング

久米 所長代行

インドネシア事務所
ジャカルタ

- ・ 地域保健医療システム強化
- ・ 口腔衛生教育
- ・ メディカルフォローアップ
- ・ 感染症予防教育

伊藤 所長

本部 事務所
東京

PHJ の活動の多くは国連ミレニアム開発目標（MDGs）に沿っています

ミレニアム開発目標（MDGs）		タイ	インドネシア	カンボジア
（目標 1）	極度の貧困と飢餓の撲滅			
（目標 2）	初等教育の完全普及の達成			
（目標 3）	ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上			
（目標 4）	乳幼児死亡率の削減		母子健康改善、栄養給食	母子健康改善、栄養給食
（目標 5）	妊産婦の健康の改善		母子健康改善	母子健康改善
（目標 6）	HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延阻止	HIV/AIDS 予防教育		
（目標 7）	環境の持続可能性の確保			
（目標 8）	開発のためのグローバル・パートナーシップ推進			

自らの力で健やかに暮らしていくための 知識や技術を伝えています

お母さんと赤ちゃんに向けた活動

インドネシア・カンボジア

●母子健康改善活動

東南アジアの中でも妊産婦死亡率や乳児死亡率が高いインドネシアやカンボジア。特に妊産婦死亡は保健医療だけでなく、社会文化的要因も絡み合い、死亡率低下は困難というのが実情です。PHJでは安全な出産や乳幼児の健康推進に向けた活動をインドネシアとカンボジアの農村で実施中。村人への保健啓蒙活動、村と医療機関とのネットワーク作り、医療機関スタッフの運営力強化など村全体で包括的かつ継続的な支援を実現しています。

▶活動成果

- ▶医療施設での出産率
2003：0%⇒2010：41%（インドネシア）
- ▶保健センターでの年間出産数（1か所当たりの平均）
事業開始前1件⇒事業開始後199件（カンボジア）



●助産師教育

妊産婦死亡の5件中4件は妊娠と出産によって起こる多量出血、感染症、中絶、難産、妊娠中毒症といった合併症が原因です。（出展：「地球環境データブックワールド」ウォッチ研究所）PHJでは保健センター勤務の助産師を万一の際に適切な判断ができるように実践的な卒後教育を行っています。また分娩室など医療施設の建設、水や電気などのインフラ整備などを行いハード面でもサポートしています。

▶活動成果

- ▶トレーニングで実際の分娩を介助した助産師は、危険なケースを判断よく移送できるようになりました。

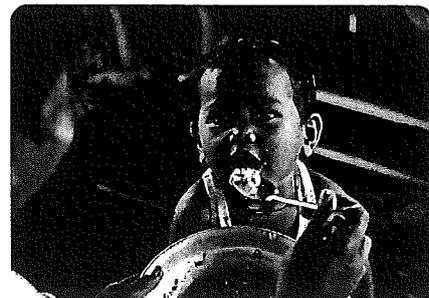


●栄養教育・保健教育

世界では5歳児未満の死亡の1/3が栄養不良に関連する原因で亡くなっています。（出典：ユニセフ2009）PHJは子供だけでなく妊産婦も十分な栄養をバランスよく摂り、抵抗力を高めるため、村人の意識向上を推進。村で食事のデモンストレーションや啓蒙活動を定期的に開催しています。

▶活動成果

- ▶栄養不良児 2004：6%⇒2010：0.1%（インドネシア）
- ▶55村で8,815人に保健教育を実施：2010（カンボジア）



© Toshihiro Kubo

子供に向けた活動

タイ

●障がい児・小児慢性疾患児の支援教育

貧困世帯で脳性まひ、ダウン症、自閉症、地中海貧血症などを抱える子供の支援を行っています。薬による治療に限らず、子供の特徴や症状に合わせたセラピー（ハーブセラピー、アートセラピー、水中運動など）にも力を入れています。また、長い闘病生活を送る子供たちと保護者を支える様々な健康教育や、保護者に対して家計を改善して少しでも子供の治療費を捻出できるように、貯蓄習慣を身につけさせる教育活動も行っています。

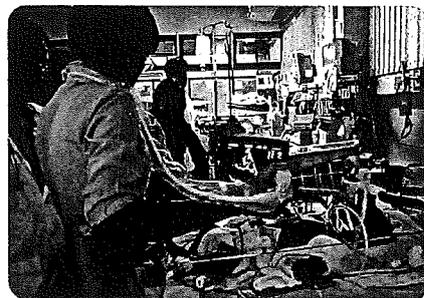


▶活動成果

▶68名の子供を支援中：2010

●小児先天性心臓病手術

タイでは先天的な心臓疾患により手術を必要とする子供が年間4000人生まれます。しかし患者の家庭の経済的な事情や地方の病院の医療スタッフの技術力に限界があるため、1000人以上が手術を受けられません。PHJは1998年からチェンマイ大学病院の協力により、支援プログラムを開始し、累計で270人の子供の心臓病手術を実施しました。



▶活動成果

▶31名の手術が成功：2010

インドネシア

●口腔衛生教育

1999年からバリ州東部地域の診療所の歯科サービス改善強化と村の小学生・園児を対象とした口腔衛生教育・予防教育活動を開始。現在この活動は完全に現地移行し、小学校では上級生が下級生に啓発教育をしています。またこの事業を通して発見した地域特有の課題を解消するため、現在も保健スタッフや歯科専門家による研修会を継続支援しています。



▶活動成果

▶年1回の保健スタッフや歯科専門家に集合教育による技術のブラッシュアップ研修会（7日間）を2010にも開催

その他の活動

●HIV/AIDS 予防教育

PHJでは主に大学生を対象としたHIV/AIDS予防教育を10年にわたり実施。学生同士が教えあうピア教育という形式を推進し、大学のカリキュラムに組み込まれるほど浸透しています。

▶活動成果

▶39名のピアリーダー育成、2331名の学生を教育：2010

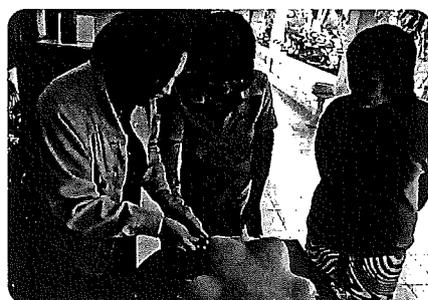


●子宮頸がん/乳がん検診推進

タイでは女性のがん死亡率の中で子宮頸がん、乳がんが1位、2位と高くなっています。(出典：GLOBALCAN2008)。PHJでは子宮頸がん、乳がん検診の促進を目指して、検診用ミニバスを利用し、地域のボランティアを巻き込みながら推進活動を行っています。

▶活動成果

▶子宮頸がん検診率 2008：9% ⇒ 2010：62%



●感染予防対策

2009年ごろよりインドネシア・バリ島で狂犬病が拡大しています。しかし犬に対する予防接種が徹底されていないうえ、人に対する狂犬病ワクチンが国内で生産されておらず病院ではワクチンが不足しています。PHJでは、地域住民への予防対策啓蒙活動を実施するとともに狂犬病ワクチンを提供しています。



●医療機器の技術指導

途上国では高度な医療機器が寄贈されても現地の医療スタッフが操作や整備ができないために放置されていることがよくあります。PHJでは1997年以来、インドネシアのバリ州ギアニア県で医療機器の寄贈とともに医療スタッフへの技術指導や整備指導を行っています。



●災害支援：東日本大震災

PHJでは国内外の災害時には緊急災害支援活動を行ってきました。東日本大震災に際して被災地の医療支援を行っている社団法人全日本病院協会と連携して募金活動や物資移送を実施。震災直後からの3か月半は、主に医療救護班(延べ127班、482人の医療スタッフ)の派遣をサポート。その後は被災した病院の復興支援を行っています。



アジアの母と子に、あなたの支援を

支援の種類と会費 (クレジット・カードでのお支払いもできます)

● 個人会員	年会費	3,000円	一口
● 法人会員	年会費	200,000円	一口
● パートナー会員	3ヶ月会費	9,000円	一口
● 法人寄付	寄付	200,000円	一口
● 用途フリー募金	寄付	1,000円	一口
● 企業連携支援	寄付	企画内容による	
● 企画募金	寄付	企画内容による	

詳細はホームページ (<http://www.ph-japan.org>) 寄付・募金をご覧ください。

「認定NPO法人」の税制上メリット

私たちは2001年12月6日付で国税庁から「認定NPO法人」の認定を受けました。

その結果、支援者の皆様は次のような税制上の優遇措置が受けられます。

個人の寄付については、2011年6月22日に国会を通過・成立した新寄付税に基づき2011年1月1日に遡って、次の優遇措置が受けられます。

詳細はホームページ www.ph-japan.org 「参加しませんか?」>>「寄付金控除のご案内」をご覧ください。

□個人の寄付：以下の税額控除（従来は所得控除）が適用されます。

$$\text{税額控除額} = (\text{寄附金} - 2000\text{円}) \times \{40\%(\text{国税}) + 10\%(\text{地方税})\}$$

なお地方税は寄付者住所の条例によります。

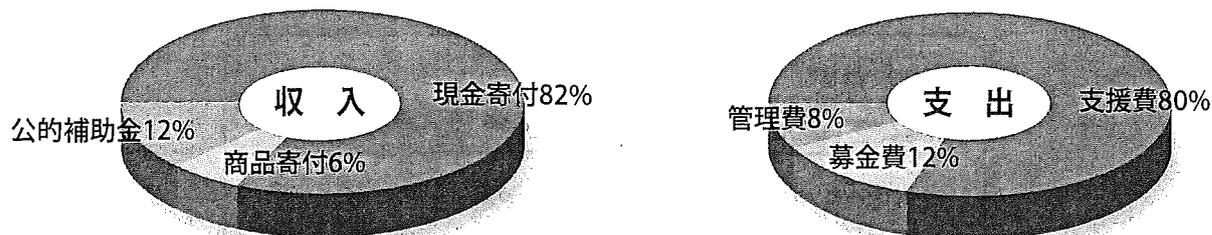
□個人相続税：寄付財産（金銭・土地建物など）全額が無税になります。

□法人所得税：年間寄付金全額を、一般寄付とは別枠で「損金算入」できます。

財政基盤と管理体制

皆様からのご寄付は、1円でも多く現地支援に役立っています。

約1.1億/年



(「認定NPO法人」取得後10年間の平均)

現地第一線で活躍する若手メンバーの活力と本部でのシニア・スタッフの経験を融合しています



ピープルズ・ホープ・ジャパン
理事長 甲谷 勝人

1997年、任意団体として発足以来、皆様の絶大なご支援のお陰で、主にアジア途上国の医療支援を続けています。私たちは米国 NGO Project HOPE の持つ国際ネットワークをフルに生かしながら「日本の顔の見える支援」を行い、支援を必要とする各国の健康・医療レベルの向上のお手伝いを進めています。

1999年に経企庁（現内閣府）より「NPO法人」の認証を、2001年に国税庁から「認定NPO法人」の認定を受けました。これらは社会的信用につながり、外務省や東京都との協力プロジェクトも大幅に増えました。

私たちは、2006年「ピープルズ・ホープ・ジャパン」として独立・改称しましたが、Project HOPE世界組織とは友好協力しつつ、「自立しようとする国々の人達を助け、医療レベル向上のお手伝いをする」ことを目的に、途上国への健康・医療支援を進めてゆきます。

今後とも皆様のご支援・ご協力をお願いします。

沿革

- 1958年 米国Project HOPE設立
- 1997年 民間の「任意団体」プロジェクトHOPEジャパンとして活動スタート
- 1999年 経済企画庁（現内閣府）より「特定非営利活動法人」として認証される
- 2001年 国税庁より「認定特定非営利活動法人」として認定される
- 2006年 ピープルズ・ホープ・ジャパンとして独立

役員

理事長	甲谷勝人	日本ヒューレット・パッカード(株)元社長
副理事長	田中滋	慶応義塾大学 経営大学院 教授
副理事長	小田晋吾	日本ヒューレット・パッカード(株)元社長
理事	川上潤	GEヘルスケア・ジャパン(株)代表取締役社長兼CEO
//	後藤幸子	武蔵野市民
//	五月女光弘	外務省初代NGO担当大使、元駐ザンビア、駐マラウイ大使
//	庄田隆	日本製薬団体連合会会長、第一三共(株)代表取締役会長
//	清家篤	慶応義塾 塾長
//	中島康雄	聖マリアンナ医科大学 放射線医学講座 教授
//	西澤寛俊	全日本病院協会会長、西岡病院理事長
//	松本謙一	海外医療機器技術協力会会長、サクラグローバルホールディング(株)会長
//	溝口文雄	横河電機(株)社友
//	木村敏雄	ピープルズ・ホープ・ジャパン代表
監事	植野道雄	みずほコーポレート銀行元専務取締役

(敬称略 50音順) 2011年9月6日現在

〈お問い合わせ先〉

ピープルズ・ホープ・ジャパン

〒180-8750 東京都武蔵野市中町2-9-32
代表 木村敏雄

Tel : 0422-52-5507 Fax : 0422-52-7035
e-mail : info@ph-japan.org http://www.ph-japan.org